

# コラム

2007/06 (2)

こんにちは。園長の佐藤です。今回は「お父さんの子育て」について綴っていきたいと思います。

私が最近読んだ本で一番衝撃的だったのは、筑波学院大学学長、門脇厚司さんの『子どもの社会力』の「子どもの本当の友達は大人である」という言葉です。まさか子ども同士の友達関係を全否定する訳ではないのですが、考えてみればもっともだ、という点も多いのです。「友」という字には①質を同じくしている人々、②常に親しく交わる人々、という2つの意味があります。そして②の意味で、先行世代である**大人達と親しく交わること**によってこそ、「人に関心・愛着・信頼感をもち、社会を構成しようとする人間に育つ」というのです。まず「**かまってくれる**」**大人との間に関係を持たなければ、社会への帰属・文化の伝達などありえない**のです。つまりヒトから人間になり得ない。

生まれてから、「魂ができる」と言われる3つまでの時期、この「関心・愛着・信頼感」を与えてくれるのは大人です。子ども同士の関わりの前に、大人との豊かな関わりが必要なのです。

一時、お父さんも「2人目のお母さんを目指そう」という雰囲気がありました。オムツも換えなきゃ、ほ乳瓶も扱えなきゃ…と。しかし、それはそれでイイコト・できるに越したことはないと思いますが、私は本質的とは思えません。何せ、**子どもと接している時間が圧倒的に違う**のです。その差を無視して、同じような役割を求めるのはどうなのでしょう。母親と異なった存在として「かまう」のが大切なではありませんか。そこで今回は、「正面から関わる」「母親を通して関わる」の2つの側面を考えます。

## 精神面での子育て

お母さんたちの話を聞いていると、子育て中というのは相当のストレスがあるようです。お母さんに余裕のない時、よい子育て・よい子育てがあるとは思えません。**お母さんを支えることは、お父さんのできる、立派な子育て**と思います。具体的には、「○時間は子どもの面倒を見るから、自由にして出かけていらっしやい」もあるでしょうし、お母さんの話を聞く、というのもいいでしょう。

この時大切なのは、カウンセリング的構えです。具体的な問題については、大抵が悩んでいる本人の中に解決策があります。それを本人が発見・実践していく後押しをするのがねらい。具体的回答は、接する時間の短いお父さんが考えるより、お母さんが出した方が**良いのが大半**では？

お父さん。「この時間は、**家内にあげよう**」と**決めてみたらいかがですか**。彼女が漠然と抱いている気持ちを明確にしていく事こそ大事です。ご自身が選んだ相手なのですから大丈夫、解決は彼女自身が見つけるはず。その手助けが必要なのです。**些細な経過に**

ついては、**言ってみればどうでもいいので聞き流し**、彼女がどう感じているのか、どうしたいのか、に焦点を絞って、話を聞いてあげてください。**彼女がどう感じているのか、を認めてあげられれば（そうか、そんな風を感じるんだね）、大抵は安定**します。「私の気持ちがかかってない」と僕もよく言われますが、彼女が求めているのはそこなのです（必ずしも同意する必要はありませんし、何か教えてあげる必要もありません。「彼女の」気持ちを受け止めてください）。

## 直接的には？

子どもは基本的に大人をよく見ている。こちらが「かまおう」と思うと、それを感じて色々なアクションをおこします。出してくるちょっかいを、受け入れてあげればいいのです。子どもが楽しんでる姿は、父親にとっても楽しいですよ。

遊びでは、運動感覚系のもの。最初はバランスが崩れるだけで大喜びで、高い必要はありません（先日、いろいろな親子体操を紹介しました）から、バランス崩れた→持ち直した！だけで十分楽しいようです。子どもが「もっと」とせがんだら、小出しにレベルアップしていくのが良いでしょう。

絵本読みでは、怪獣もの、オバケもの。これを抑揚たっぷりに読むと、とても楽しいです。ノンビリ・ホンワカものはお母さんの方が良いようです。これは、先を見ると「闇・挑戦・未開・死…」を無闇に恐れぬことにつながります。「**ドキドキするけれど、お父さんがいるから大丈夫**」って、父親冥利な気がします。可能ならばお母さんは、子どもと一緒にドキドキする方にまわってください。

どちらにせよ、**未知なる世界へ手を引いていってくれる、そんなイメージの関わり方が**良いのではないのでしょうか。

そしてお母さんには、「父の日」に子どもと一緒に「**アナタ、いつもありがとう**」と言ってあげて欲しいものです。単純ですが嬉しいです。如何すごされましたでしょうか？

## 小ネタをいくつか…

大抵のお父さんは仕事で遅い。本当に難しいですね。でも、「お父さん今日も遅いわね、マツタク」は…。素直な気持ちとしては分かりますが、子どもには「遅くまでみんなのために頑張ってるわね」と言ってあげてください。「**どうせ…**」という扱いをしていると、**イザという時お父さんからの抑えが効かなくなります**。

子どもにせがまれ、即受け入れられない時は「お父さんに聞いてみましょう」というのはいかがですか。結局はお母さんが決めて良いのですが、「母子1対1で引き分け」よりも2対1になると、案外子どもも素直に受け入れられるものです。「**兎に角お父さんがダメ**と言っている」というのも、たまには使えるでしょう。**その場に姿は現さなくても、存在を感じさせる**だけで子どもが安定してくることもあるそうです。